

2019（令和元）年7月30日

奈良市長 仲川 げん 様
奈良市教育長 中室 雄俊 様

追加版2（提案内容の修正と追加）

平城西中学校区における施設一体型小中一貫校についての提案

（神功地区）新小中学校開校準備協議会

1 図書館について

（提案の趣旨）

- ① 7月9日付けで提出した「新しい学校についての提案の内、図書室（館）に関する部分は撤回します。
- ② 新しい学校の図書館は、子どもたちの日常の動線の近くに、1か所で十分な広さを確保し、先進校も参考にして充実した、子供たちが利用しやすく、行きたくなるようなものを設置して下さい。

（提案の理由）

協議会では、基本構想案に沿って図書館を2室とする前提での提案を致しました。しかしながら、図書館を2カ所に分けることや部屋の広さなどについて見直しを求める意見が寄せられています。理由とされているのは次のような点です。

- i 学年にとらわれず様々なことへの興味を持つ子供たちがいるので、それぞれの個性に合わせ幅広い分野の本に触れやすいようにしておくことが大切である。そうだとすると学年などで分けてしまわない方がいい。
- ii 学年で図書を分けるのは、図書管理者として結構難しい作業となるところ、1ヶ所であれば区別にあまり厳密でなくていいので運用しやすい。
- iii 2カ所になると、開室するための人員（本来司書が配置されるべきであるがそれもなされず）ボランティアに頼っているのが現状であるが、2カ所になると二人以上の確保が必要となるところ、ボランティア要員は高齢化の影響で減少しており確保は容易ではない。そうすると人員の手配が出来ないということで、2カ所共に開館できなくなりやすい。現状でも、十分開館できていない学校があると聞き及んでいる。
- iv それぞれが狭いので、様々な役割を担わせる図書館、子ども達が行きたいと思うような図書館にならないのではないかと危惧される。

今、第3の教育改革が進行中であると言われていています。それは、これまでの知識注入の教育から、子どもたちが自ら主体的に学ぶ調べ学習とかアクティブラーニングと言われているものです。その新しい教育を行う拠点として重要なのが図書館であると考えられます。新しい学校では、図書館を楽しみ読みのエ

リアと調べ学習のエリアに分けたり、PC ルームを設置したりされているのはそのような狙いがあるのではないのでしょうか。

奈良市教育委員会が、平城西中学校区規模適正化に向けた説明会において、新しい学校についての方針の1つとして「図書館教育の充実」を掲げ、「図書館を地域の拠点とすると共に、子どもたちがのびのびと学べる環境を整えます。子どもから大人まで楽しめる図書を充実させ、子どもの語彙力を高めます」図書館内を「調べ学習エリア、読書を楽しむエリア、みんなが集うエリア」にわけけることを示唆するような説明もありました。

ところが、基本構想案には、このような発想が残っているように感じられません。どこに行ってしまったのでしょうか。

基本構想案を見ると、新しい校舎は昭和25年モデルの長方形を想定し、その中に各種の部屋を割り当てていかれただけのように思えます。本来、どのような施設、例えばどのような使い方を出来る図書館をどのような場所に配置することが先ず考えて、その後にそれらの要求を満たすための校舎はどうあるべきかを考えられるべきであると考えます。

そのような点から、設計業者も含めて新しい校舎のあり方から見直して欲しいと願っています。

(参考図書)

平湯モデル図書館写真

子どもたちで溢れる学校図書館のつくり方

発行所 ボイックス(株)

、 以下に、中学校 PTA 会員さんからのご意見を添付します。

◆図書室について

図書室は、普段よく通る動線の中に設ける。

近年の図書室は、学校の顔となるような中心的な場所で、ガラス張りで中からも外からも見通しが効き、利用しやすいように工夫されていることが多い。

習っていない漢字が多用されているから大きい子向けの本だとか、絵本は小さい子が読む本だと単純に思いがちであるが、本というものはそのように単純に区別されるものではない。

低学年の子も中学生が読みそうな本を手にとって興味を抱いたり、中学生が絵本を読むこともある。もちろん本は分類されて配置されるであろうが、せっかく施設一体型の学校になるのだから、図書室は二つに分けず一つにし、その中で書庫のエリア分けをしてほしいと思う。

図書室の中には気軽に座れるベンチだけでなく、1クラス分の子どもたちが全員座れるだけのテーブルと椅子を配置し、授業でも使いやすいように配慮してほしい。

今後の本の管理をどうするかにもよるが、カウンターを設け、パソコン管理できるようにしておくのと良いのではないかと。

最後に、本来なら学校司書の方が居ても良いくらいだが、少ないボランティアの方々の力に頼らざるを得ないことを考えると、なおさら図書室は1ヶ所だけにしておいたほうが管理のし易さにも繋がると思う。

2 渡り廊下について

(提案の趣旨)

新築する校舎とリノベーションする校舎を繋ぐ渡り廊下は、単に物理的に建物を繋ぐだけの廊下ではなく、施設一体型を象徴的に表すことの出来る渡り廊下となるものにしてほしい。

(提案の理由)

両校舎が、分断せずに一体化することになるので、どのような渡り廊下が出来かかは、重要な意味合いがあると思われる。

参考までに、2017年4月に開校した岐阜県大野郡白川村にある小中一貫教育をしている公立の白川村立白川郷学園では、「小中をつなぐふれあいブリッジ」として渡り廊下の幅を広く取り、採光も良く、サイドに展示スペースを設けています。

写真を添付します。